

フョイエルバッハの会機関誌『フョイエルバッハの会通信』  
第 63 号以降のおもな記事（ニュース、書誌情報等は省略）

第 63 号（2007 年 6 月 10 日）

紙上インタビュー 1：川本隆さん——論文「神秘主義と質料志向——若きフョイエルバッハのヘーゲル主義とその離反」について

フョイエルバッハ研究情報 1 ウルズラ・ライテマイアー『永続する変革 青年ヘーゲル主義からフランクフルト学派までの近代理論』

第 64 号（2007 年 9 月 25 日）

紙上インタビュー 2：片山善博さん——新著『差異と承認—共生理念の構築を目指して—』について

フョイエルバッハ研究情報 2 ジュディート・ジーファーディング『連帯性と感受性 ルートヴィヒ・フョイエルバッハとリチャード・ローティを範とする対話的倫理の素描』

第 65 号（2007 年 12 月 15 日）

紙上インタビュー 3：辻康彦さん——論稿『富と自由』について

第 66 号（2008 年 4 月 4 日）

国際フョイエルバッハ学会・ヴェストフェーリッシュェ＝ヴィルヘルム大学・ナポリ哲学研究イタリア研究所共催『フョイエルバッハとユダヤ主義 国際フョイエルバッハ学会シンポジウム』報告（上）

第 67 号（2008 年 6 月 18 日）

紙上インタビュー 4：村圭さん——国際学会研究発表「三月前期のユダヤ人解放から見た、フョイエルバッハの人間像」について

国際フョイエルバッハ学会シンポジウム『フョイエルバッハとユダヤ主義』報告（中）

第 68 号（2008 年 9 月 26 日）

紙上インタビュー 5：柴田隆行さん——国際学会研究発表「「フョイエルバッハと若きヘーゲルにおけるユダヤ教およびキリスト教の批判——人間的エゴイズムの意義」について

国際フョイエルバッハ学会シンポジウム『フョイエルバッハとユダヤ主義』報告（下）

第 69 号（2008 年 12 月 22 日）

紙上インタビュー 6：石川實さん——明治期日本におけるフョイエルバッハ研究について

神田順司「再訪：マルクスとユダヤ人問題 (Noch einmal: Karl Marx und die Judenfrage)」要旨（「国際フョイエルバッハ学会シンポジウム「フョイエルバッハとユダヤ主義」(2008.3.27-30, Münster)」

第 70 号（2009 年 4 月 1 日）

紙上インタビュー 7：河上睦子さん——新著『宗教批判と身体論——フョイエルバ

ッハ中・後期思想の研究』について

石塚正英「ド・ブロス（杉本隆司訳）『フェティッシュ諸神の崇拜』（法政大学出版局、2008年）合評会で話したこと、話題になったこと」

第71号（2009年6月25日）

【復刻】暉峻凌三「村里のフォイエルバッハ」（『唯物論』第5号、汐文社、1975年11月、pp. 88-90）

第72号（2009年9月10日）

紙上インタビュー8：黒沢惟昭さん——疎外論をめぐって

第73号（2009年12月31日）

新刊紹介 国際フォイエルバッハ学会叢書第4巻『フォイエルバッハとユダヤ教』

第78号（2011年4月25日）

菅野孝彦「フォイエルバッハとニーチェ——内的世界の冒険者たち」

第79号（2011年6月27日）

川本 隆「研究ノート 『理性論』Ⅱ章 §11 の対訳」

第81号（2011年12月5日）

紙上インタビュー9：津田雅夫さん——新書『「もの」の思想——その思想史的考察』をめぐって

第82号（2012年3月8日）

紙上インタビュー10：亀山純生「共編著『〈農〉と共生の思想——〈農〉の復権の哲学的探求』」

石塚正英「自然災害と信仰をフォイエルバッハはどう関連付けたか」

第83号（2012年6月10日）

ヴェルナー・シュッフェンハウアー氏追悼特集（1．シュッフェンハウアー氏の学位論文概要。2．『フォイエルバッハと若きマルクス』について。3．同上改訂第二版について。4．フォイエルバッハ全集編集。5．ヨアヒム・カール「シュッフェンハウアー氏追悼の辞」）

第84号（2012年9月30日）

片山善博「私にとってのフォイエルバッハ——その哲学にふれて」

アルフレート・シュミット(Alfred Schmidt)氏逝去（1．『フランクフルト一般新聞(Frankfurter Allgemeine Zeitung)』の追悼記事、2．『ナッサウ新報(Naussauiische Neue Presse)』の追悼記事）

第85号（2012年12月31日）

新刊紹介：国際フォイエルバッハ学会叢書第5巻「政治的フォイエルバッハ」

石塚正英「【読書ノートの時代】フォイエルバッハ」

第86号（2013年3月20日）

国際フォイエルバッハ学会共同発起人・元会長ハンス・ユルク・ブラウン氏逝去（1．ハンス・ユルク・ブラウン著、桑山政道訳『フォイエルバッハの人間論』（新

地書房、1984年)より転載。(1)「日本語版への序言」(1983年3月付)。(2)桑山政道氏「訳者あとがき」(1984年6月付)より一部転載。2. ハンス・イェルク・ブラウン著、桑山政道訳『フォイエエルバッハの宗教哲学——宗教的なものの批判と容認』(新地書房、1988年)「訳者あとがき」より一部転載。3. ブラウン「宗教批判の観点から見た彼岸表象——ルートヴィヒ・フォイエエルバッハの現代性」の要旨。4. ブラウン氏著作目録)

【復刻】宗教の本質に関する講演(船山信一著作集第4巻『人間学的唯物論』こぶし書房1998年・月報所収)

第87号(2013年6月20日)

【復刻】ルートヴィヒ・フォイエエルバッハ著、猪木正道訳『死と不死について』(鬼怒書房、1948年)

第88号(2013年9月25日)

【復刻】フォイエエルバッハ著『宗教の本質』奥一雄訳の訳者序文

【復刻】グスタフ・マイヤー著「フリードリヒ・エンゲルス伝——政治的発端——」(暉峻凌三訳、訳者後書 1979年、私家版)

石塚正英「ルートヴィヒ・フォイエエルバッハ 神々の唯物論」

第89号(2013年12月20日)

川本隆「やなせたかしとフォイエエルバッハ」

【復刻】三木清「フォイエエルバッハ」(『世界文藝大辞典』中央公論社、1935年。『三木清著作集』第12巻、岩波書店、1967年、所収)

第90号(2014年3月31日)

池田成一「フォイエエルバッハと疎外論の復権をめざして」

柴田隆行「エッセー：マルクス研究におけるフォイエエルバッハの扱い、いまも変わらず」

【復刻】信太正三「フォイエエルバッハ」(松浪信三郎・飯島宗享編『実存主義辞典』東京堂出版、1964年)

【文献情報】アンドレアス・アルント『直接態』2013年

第91号(2014年6月30日)

川本隆「報告。日本ヘーゲル学会第19回大会シンポジウム「フォイエエルバッハとヘーゲル——宗教をめぐる対話」を終えて」

【復刻】宮本武之助「フォイエエルバッハの宗教論について」〔結論部分のみ抜粋〕(『基督教文化』№21、新教出版社、1948年)

第92号(2014年9月30日)

【復刻】フリードリヒ・ヨードル著、暉峻凌三訳「フォイエエルバッハの生涯」(『ルートヴィヒ・フォイエエルバッハ』付録 Friedrich Jodl, Ludwig Feuerbach. 2.verbesserte Auflage. Stuttgart 1921. 訳文は1993年12月柴田隆行編集・発行)

第93号(2014年12月24日)

【復刻】出 隆「哲学はないか——わたくしの彷徨」『變革の哲學へ』(彰考書院1949年)所収

【復刻】アンリ・ルフェーヴル「疎外の概念」(『思想』№526、1968年4月)の抄録

第 94 号 (2015 年 3 月 25 日)

津田雅夫「疎外論再考——モノと疎外」

川本 隆「『疎外論再考』研究交流会を終えて」

第 95 号 (2015 年 6 月 20 日)

文献紹介：Francesco Tomasoni, *Ludwig, Feuerbach. Entstehung, Entwicklung und Bedeutung seines Werks*. Aus dem Italienischen übersetzt von Gunnhild Schneider. Münster u-a., 2015. (Internationale Feuerbach- forschung, Bd. 6) 448 Seiten, 68,00 €. ISBN 978-3-8309-3213-0

文献紹介：モーレシヨット『わが友たちへ。人生の思い出 (Jacob Moleschott, *Für meine Freunde. Lebens-Erinnerungen*. Gießen 1894)

第 96 号 (2015 年 9 月 25 日)

川本 隆「学位論文審査を終えて」〔「理性の神秘と自然の先在 —— 初期フォイエエルバッハの思弁的アプローチに関する一考察」〕